

## 第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

令和8年2月10日(火) 第5校時

四万十市立東山小学校

4年2組 児童数27名

指導者 寺田 成偉

### 1 単元名 「自然や環境を守る人になろう」

#### 2 単元について

##### (1) 単元観

本単元は、全体計画に定めた探究課題「ふるさとの環境問題について考える人々」を踏まえて 構想した単元である。

日本有数の河川である四万十川をはじめ、本校がある四万十市内を流れる川には雄大な自然と豊かな環境が今なお残っている。校区を流れる後川も同様に、多様な水生生物が暮らすことのできる豊かな環境が現存している。しかし、この自然の豊かさは人々の暮らしと密接に関係しており、恒久的なものではない。実際に、人間の生活が豊かになることで元々あった自然に影響を与え、豊かさを失っていくという環境問題も各地で起こっている。

そこで、後川へ実際に足を運び、フィールドワークを行うことで自然の豊かさを体感することで、その自然を大切にしたい、未来に残したいという思いを育み、自分事として課題に向き合い、できることをやってみようとする姿を期待したい。。その際、四万十川財団の方々の協力も得ることで水生生物についての知見を広げたり、環境を守るために尽力する人々がいることに気付かせたりしたい。

##### (2) 児童観

本学級の児童は、校区を流れる後川を教材として、「後川の自然と環境を知る」ことを学習の柱として据えて、自分たちの興味・関心に基づき学習を進めている。これまでに、四万十川財団の職員の方から四万十市の環境と水生生物の関係の話の聞いたり、実際に後川へ行って水生生物を見つける活動を行ったりしてきた。その中で、後川の魅力や価値に少しずつ気付いてきている。

総合的な学習の時間に関するアンケートを行ったところ、総合的な学習の時間は好きですか?という問いに対しては「とてもそう思う」57.7%、「少しそう思う」38.5%、「あまりそう思わない」3.8%、「そう思わない」0%という結果となり、総合的な学習の時間に苦手意識を持っている児童は少ないと考えられる。特に、自然の中で体験的な学習をすることや生き物について調べる学習にはほとんどの児童が興味をもって主体的に取り組む姿が見られた。対して、学んだことを整理したり、そこから仮説を立てて考えを伝え合ったりする場面では、一部の児童の発言や意見で進んでいってしまうこともあった。アンケートからも情報収集以外の学習過程に苦手意識を持っている児童が多い事が分かった。

	「どんなことを調べたいか決める」時間	「しらべる」時間	「集めた情報をまとめて、気付いたことを考える」時間	「分かったことを人に伝える」時間
総合で一番得意なのはどんな活動ですか？	3.8%	65.4%	19.2%	11.5%
総合で一番苦手なのはどんな活動ですか？	26.9%	7.7%	38.5%	26.9%

児童の興味・関心を保ちながら、それぞれの児童に後川の自然や環境に対して思いを持たせ、「後川の自然や環境を守りたい」という意識をさらに高めていきたい。

### (3) 指導観

本単元では、児童が身近な自然環境である「後川」を対象に、自ら問いを見出し、解決に向けて探究し続けるプロセスの構築を目指す。

まず、教材提示においては、実際に現地へ足を運ぶ体験的な学習を主な教材として位置付ける。実際に後川へ足を運んで、川の様子や水生生物の住む環境を自ら観察・記録する体験的な学習を取り入れることで、児童が自分の目で確かめた事実に基づいた「切実な問い」を生み出し、学びを進められるようにしたい。

学習活動においては、複数の情報から目的や相手に応じて、適切な情報を選択する活動を行う。その際に、クラウド上に学習の足跡を蓄積することで、これまでの学びを振り返りながら自分たちの目的達成のための活動へとつなげていけるようにする。

これらを支える基盤として、ICTを効果的に活用する。共有ノートを用いることで他者の思考をリアルタイムで参照し、自分の考えを見直したり、深めたりできるようにする。また、学びを言語化することが苦手な児童に対しては、画像や動画を用いた視覚的な表現を支援し、学びに向かうことができるようにする。

### 3 研究主題に迫るための手立て

(1) 【研究主題】 自律的に学ぶ児童の育成を目指した授業づくり  
～単元デザインの創造とクラウドの活用を大切に～

#### (2) 単元デザイン

基礎・基本の指導	個別最適な学び		協働的な学び
<b>【基礎・基本の指導】</b> ①学習過程を可視化し、児童が主体的に学び進められるようにする。また、多様な情報収集の方法や目的に応じた表現方法を身に付けられるようにする。	<b>【指導の個別化】</b> ①児童の探究的な学びの質を向上させるために、クラウドに体験活動の写真や各種資料等を整理して保存しておく。また、児童の学習の進捗状況を見取り、必要に応じて各種資料や他者の考えを参考にするような声かけを行う。	<b>【学習の個性化】</b> ①情報収集の過程において、手段（図書資料、インターネットなど）を選択できるようにする。また、まとめ・表現の過程において、表現方法を選択できるようにする。	<b>【協働的な学び】</b> ①友だちと対話したり他者の意見を尊重したりする活動においては、異なる立場や意見をもとに自分の考えを変容させている児童の意見を見取り、積極的に価値付ける。

### 4. 単元の目標

身近に流れる後川の自然や自分たちの生活とのかかわりを調べる活動を通して、後川の特徴や価値、自分たちの生活との関わりを理解し、その環境を守ろうとする人々の取組や思いを知り、地域に対する誇りや愛着を高めるとともに、自分たちが後川の環境を未来に残すためできることは何か考え、行動しようとする。

### 5. 単元の評価規準

#### 評価の観点

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①後川の特徴や価値、自分たちの生活との関わりについて理解している。 (知識)	①後川の現状をふまえ課題を設定するとともに、解決の方法を考え計画を立てている。 (課題の設定)	①後川の環境を守るために、自他のよさを生かしながら協力して課題解決に取り組もうとしている。 (主体性・協働性)
②後川に関する各種調査（水生生物調査やアンケート調査など）を、目的や相手に応じた方法で実施している。 (技能)	②目的に応じて情報収集の方法を選択し、課題解決に必要な情報を収集している。 (情報の収集)	②課題解決に向けて自分の生活を見直したり、自分と異なる意見を受け入れたりしようとしている。 (自己理解・他者理解)

<p>③後川の環境を守っていききたいという意識の高まりは、後川の環境と自分たちの生活との関わりを 探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。 (探究的な学習のよさの理解)</p>	<p>③課題解決に必要な情報を選んだり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら、解決に向けて考えている。 (整理・分析) ④伝える相手や目的に応じて、分かりやすくまとめ、表現している。 (まとめ・表現)</p>	<p>③後川と自分たちの生活とのつながりに気づき、後川の環境を守るためにできることを考えようとしている。 (将来展望・社会参画)</p>
--	---	--

## 6. 指導計画 (70時間)

	○ねらい・学習活動	知	思	態	・評価方法 【視点】
1 後川を 知ろう ・ 味わおう！ ⑱	<p>○後川について知っていることや持っているイメージを出し合い、ウェビングマップを作る。 (2) ○それぞれの班で作成したウェビングマップをもとに、後川について自分たちが知っていることを確認する。 (2) ○後川について詳しく知るための、情報の集め方について考える。 (2)</p>		①		<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言</li> <li>・行動観察</li> <li>・ロイロノート</li> </ul>
	<p>○「四万十川財団」の神田さんから話を聞き、後川についての情報を集める。 (1) ○実際に後川(秋田橋付近)へフィールドワークに行き、川遊びの楽しさや川に住む生物について知る。 (3)</p>	①	②	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動観察</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
	<p>○話を聞いて分かったことや、フィールドワークでの気づきを出し合い、集まった情報を整理する。 (6) ○後川がどのような川なのか、分かったことをまとめ、次への課題をもつ。 (2)</p>		③		<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言</li> <li>・行動観察</li> <li>・ロイロノート</li> </ul>
2 後川の 魅力を見 よう！ ㉑	<p>○スコア値の高い生物に出会うためには、どうすればよいか話し合う。 (6) ○さらに多くの水生生物に出会うために、水生生物の生態についてインターネットや図鑑などから情報を集める。 (4)</p>		① ②		<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言</li> <li>・行動観察</li> <li>・ロイロノート</li> <li>・スプレッドシート</li> </ul>

	<p>○第2回水生生物調査を行い、後川に住む水生生物についての情報を集める。(4)</p> <p>○調査で新しく出会った生物や2回目の活動で得た気づきを出し合い、分かったことを整理する。(6)</p>	①	② ③	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言</li> <li>・行動観察</li> <li>・ロイロノート</li> <li>・スプレッドシート</li> </ul>
	<p>○2回の調査を通して、気付いた後川の魅力を出し合う。(3)</p> <p>○これまでに学んだことを基に意見を出し合い、後川についてのイメージを学級全体でまとめていく。(6)</p>	②		③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言</li> <li>・行動観察</li> <li>・ロイロノート</li> <li>・スプレッドシート</li> </ul>
<p>3 後川と生きるわたしたち ⑳</p>	<p>○後川は本当にきれいな川といえるかどうか考える。(3)</p> <p>○透明度や水質、河原のきれいさに関する情報を集める。(5)</p> <p>○集めた情報をもとに後川の特徴や現状を分析する。(3)</p> <p>○自分たちにできることを考え、実行に向けて準備をする。(7)</p> <p>○考えた取組を実行し、自分たちの取組を振り返る。(5)</p>	②	① ③ ④	① ③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言</li> <li>・行動観察</li> <li>・ロイロノート</li> <li>・スプレッドシート</li> </ul>

7. 本時の指導 (13 / 20 時間)

(1) 本時の目標 後川について伝えたいことや伝えるべき情報(事実)を、相手や目的に合わせて分かりやすく整理することができる。

(2) 評価規準 伝える相手や目的に応じて、分かりやすくまとめ、表現している。  
(発言・行動観察)

(3) 本時の展開

学習活動	○教師の指導・支援	評価【評価規準】（方法）
<p>1. 各グループの伝える相手と伝える目的を確かめる。</p> <p>2. 本時のめあてを確かめる。</p>	<p>○黒板や掲示物等に本時のめあてや課題意識がいつでも確認できるようなものを準備しておく。</p>	
<p>どんな内容や資料にすると、相手に思いが伝わるだろうか？</p>		
<p>3. それぞれのグループに分かれ、自分たちの思いや考えを知ってもらうためにどのような内容をどの資料で伝えるとよいか考える。</p>	<p>○目的意識や相手意識に合った情報を、クラウド上の資料を根拠にして選択している児童を価値づける。（方向性がぶれないようにする）</p>	<p>【伝える相手や目的に応じて、分かりやすくまとめ、表現している。】 (発言・行動観察)</p>
<p>4. 本時を振り返る。</p>	<p>○スプレッドシートに今日の学習を振り返らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜその情報を選んだのか</li> <li>・次回に向けて考えたこと</li> </ul> <p>○スプレッドシートに振り返りを残し、次時の学びにつなげる。</p>	<p>【後川と自分たちの生活とのつながりに気づき、後川の環境を守るためにできることを考えようとしている。】 (スプレッドシート)</p>

(4) 板書計画

**4年2組の思い**

後川が、水のきれいな川であってほしい。  
 ゴミのないきれいな川であってほしい。

**伝える目的**

水のきれいさを  
知ってほしい

ゴミを減らす  
ため

後川を有名に  
したい

どの資料でも  
よいわけではない！

④ どんな内容や資料にすると、相手に思いが伝わるだろうか？

スクリーン